

自称代名詞の使用に関する調査研究

—首都圏の若年層を対象として—

菱 刈 千 佳

1. はじめに

近年、テレビメディアの影響や情報化の波によって標準語が広まり、若年層における方言の衰退が指摘されて久しい。しかし一方で、方言が標準語圏で若者言葉として広まるケースもある。若年層の女性を中心に東日本でも使われている自称代名詞「ウチ」もその一つである。

3歳から現在まで千葉市で過ごした筆者自身、高校生の時に周囲の友人が「ウチ」を使用していることに影響を受け、「ウチ」を使用していた。大学に入学して意識的に「ワタシ」を使用するようにした結果、現在では「ウチ」は使わなくなった。同級生の友人の多くも、高校時は「ウチ」を使用していたが、大学生になって「ワタシ」に戻っている。

このことより、自称代名詞の使用には「ウチ」を使ったり「ワタシ」を使ったりというゆれが見られることに気がつき、「ウチ」を含め、関東地方ではどのような自称代名詞が使われているのかに興味をもった。本稿では、首都圏の高校生と大学生が使用する自称代名詞の実態について調査し、話す相手や使用時の年齢による違いについて分析した。

2. 調査の概要

2.1. 調査方法

調査は、紙面によるアンケート形式で実施した。調査票では、友人・後輩・親・教師（日常会話）・教師（改まった場面）に対するそれぞれの会話の中で、「私」の部分は何と言うかを質問し、回答を得た。

<例> 会話の中であなたの友人に「洋食と和食どっちが好き？」と聞かれたとします。そこで、あなたが「私は洋食（又は和食）が好き」と答えるとき、「私」の部分は何と言いますか。又、この場合、中学生の時（←高校生に対しては中学生の時とし、大学生に対しては高校生の時とした）は何と言っていましたか。

2.2. 質問場面の設定

調査票の質問場面は以下の基準により設定した。

上下関係…対等は「友人」、目下は「後輩」、目上は「教師」とした。

公私関係…私的な関係は「友人、後輩、親」とし、公的な関係は「教師」とした。

内と外…内は家族である「親」であり、外は「友人、後輩」とした。

態度・心理状態…教師を相手とした場合に限り、「日常場面」と「改まった」場面を設定した。

また、親疎関係については、「親」を友人と親、「疎」を後輩と教師として分析した。

2.3. 調査年月

調査は、2006年6月～8月にかけて行った。

2.4. 調査対象者

調査は東京都の大学の教員、千葉県習志野市の高校の教員に依頼し、その学校に通う学生を対象に行った。その中から言語形成期（5歳～15歳）に首都圏で成育している女性100名（大学生55名、高校生45名）、男性69名（大学生11名、高校生58名）を調査対象とした。調査対象者の生年と言語形成期に過ごした地域は以下のとおりである。

	生 年	女 性	男 性
大 学 生	昭和58年	—	千葉1名
	昭和60年	東京14名	東京1名
	昭和61年	東京19名、千葉6名	東京5名、神奈川2名
	昭和62年	東京9名、千葉7名	東京2名
高 校 生	高校3年生	千葉14名	千葉9名、東京2名
	高校1年生	千葉31名	千葉47名

3. 調査結果と考察

以下の表では、調査対象者数を分母にしており、同一の被調査者が複数回答している場合も含まれているため、合計の使用率が100%を超えている場合が多い。

3.1. 女性の場合

3.1.1. 大学生全体

大学生現在		友人	後輩	親	教師(日常)	教師(改まって)
	ワ タ シ	44%	55%	17%	93%	96%(ワタクシ・5%)
	ア タ シ	47%	47%	50%	11%	—
	ウ チ	29%	11%	13%	—	—
	自分の名前	11%	2%	28%	—	—

高校生時		友人	後輩	親	教師(日常)	教師(改まって)
	ワ タ シ	38%	45%	17%	89%	98%(ワタクシ・2%)
	ア タ シ	44%	42%	48%	15%	—
	ウ チ	33%	16%	15%	—	—
	自分の名前	13%	5%	28%	—	—

<「大学生現在」における相手による使い分け>

ワタクシは教師に対する使用率が圧倒的に高く、次いで「友人」「後輩」に対する使用率が高い。一方、アタシは「友人」「後輩」「親」に対する使用率が高い。このことから、ワタクシは「目上」「公的」の場合の使用率が特に高く、アタシは「対等、目下」「私的」な場合に使用されることが多いと言える。

また、「友人」と「後輩」についてはワタクシとアタシの使用率に大きな差は見られないが、ワタクシは「親」については、やや大きな差が見られる。ことことから、ワタクシには、アタシに見られない内と外による使い分け意識があると言える。

次に、ウチの場合は「友人・後輩・親」に対して使用され、特に友人に対して使用される割合が高くなっている。また、「自分の名前」は、親に対して使用される割合はアタシに次いで高い。すなわち、ウチは「外、対等で且つ親しい」の関係で使われることが最も多く、「自分の名前」は「外」より「内」で使われやすいと言える。

<使用時の年齢による違い>

全体的に大きな差は見られないが、ワタクシとアタシは使用時の年齢が高くなるほど使用率が増加する傾向があり、ウチの使用は減少傾向にある。

3.1.2. 高校生学年別

高校生は学年ごとの違いが顕著であったため、学年別に調査結果を分析する。

3.1.2.1. 高校3年生

高校生現在		友人	後輩	親	教師(日常)	教師(改まって)
	ワ タ シ	43%	43%	36%	79%	86%(ワタクシ・14%)
	ア タ シ	36%	29%	36%	14%	—
	ウ チ	57%	36%	14%	7%	—
	自分の名前	—	—	14%	—	—

中学生時		友人	後輩	親	教師(日常)	教師(改まって)
	ワ タ シ	36%	43%	36%	86%	93%(ワタクシ・7%)
	ア タ シ	21%	29%	21%	7%	—
	ウ チ	64%	36%	21%	7%	—
	自分の名前	—	—	21%	—	—

<「高校3年生現在」における相手による使い分け>

ワタクシとアタシの使用場面、および、それぞれの場面における使用率は3.1.1.で述べた「大学生現在」と類似している。しかし、ウチの使用率が「友人」と「後輩」に対しては大学生よりも著しく高いことが注目される。また、ワタクシの親に対する使用率も大学生より高い。

<使用時の年齢による違い>

全体として、使用時の年齢の違いによる目立った差は認められないが、アタシの使用はやや増加傾向、ウチの使用はやや減少傾向にある。

3.1.2.2. 高校1年生女子

		友人	後輩	親	教師(日常)	教師(改まって)
	ワ タ シ	28%	31%	25%	81%	84%(ワタクシ・9%)

高校生現在	ア タ シ	28%	31%	25%	13%	6%
	ウ チ	74%	52%	44%	19%	3%
	自分の名前	9%	3%	19%	3%	—
	ジ ブ ン	—	—	—	6%	—

中学生時		友人	後輩	親	教師(日常)	教師(改まって)
	ワ タ シ	31%	34%	31%	71%	88%(ワタクシ・3%)
	ア タ シ	19%	28%	22%	13%	6%
	ウ チ	81%	52%	31%	22%	—
	自分の名前	9%	3%	23%	3%	—
	ジ ブ ン	—	—	—	3%	—

<「高校生1年生現在」における相手による使い分け>

ワタシとアタシの使用場面は「大学生現在」、「高校3年生現在」と類似している。

ウチの使用率はどの場面においても高校3年生よりも高く、とくに親に対する使用率の差が目立つ。「自分の名前」の使用率も全体的に高校3年生よりも高い。

<使用時の年齢による違い>

全体としてとくに大きな差は認められない。

3.1.3. 場面別・年齢別の使用状況(1)

次に、回答された自称代名詞の種類とそれぞれの使用率を、各場面(対者)別に、年齢差を中心に考察する。

教師(日常会話)に対して					教師(改まった場面)に対して				
	大学生 全体	高校生 全体	高校 3年生	高校 1年生		大学生 全体	高校生 全体	高校 3年生	高校 1年生
90%以上	ワタシ				90%以上	ワタシ			
85~89%					85~89%		ワタシ	ワタシ	
80~84				ワタシ	80~84				ワタシ
75~79		ワタシ	ワタシ		75~79				
70~74					70~74				
⋮					⋮				
15~19	アタシ	ウチ		ウチ	15~19				

10～14		アタシ	アタシ	アタシ	10～14		ワタクシ		
5～9			ウチ	ジブン	5～9	ワタクシ		ワタクシ	ワタクシ, アタシ

友人に対して					後輩に対して				
	大学生 全体	高校生 全体	高校 3年生	高校 1年生		大学生 全体	高校生 全体	高校 3年生	高校 1年生
70%以上				ウチ	70%以上				
65～69%		ウチ			65～69%				
60～64					60～64				
55～59			ウチ		55～59	ワタシ			
50～54					50～54				ウチ
45～49	アタシ				45～49	アタシ	ウチ		
40～44	ワタシ		ワタシ		40～44			ワタシ	
35～39			アタシ		35～39		ワタシ	ウチ	
30～34		ワタシ, アタシ			30～34		アタシ		ワタシ, アタシ
25～29	ウチ			ワタシ, アタシ	25～29			アタシ	
20～24					20～24				
15～19					15～19				
10～14	自分の名 前, ジブン				10～14	ウチ			
5～9		自分の名前		自分の名前	5～9				

親に対して				
	大学生 全体	高校生 全体	高校 3年生	高校 1年生
70%以上				
65～69%				
60～64				
55～59				
50～54				
45～49	アタシ			
40～44				ウチ
35～39		ウチ	ワタシ, アタシ	
30～34				
25～29	自分の名前	ワタシ, アタシ		ワタシ, アタシ
20～24				
15～19	ワタシ	自分の名前		自分の名前
10～14	ウチ		ウチ, 自 分の名前	
5～9				

「教師（日常会話）に対して」を見ると、高校生はウチも若干使用するが大学生は使用しないという違いが見られる。

「友人に対して」と「後輩に対して」では、大学生も高校生も「友人に対して」のみ低い割合ではあるが「自分の名前」を使用し、後輩に対しては「自分の名前」を使用しないこと、また、全体的に年齢が若くなるほど相手にウチを使用する割合が高くなり、それと反比例してワタシ・アタシの使用率が低くなっていくことが共通している。そして、どの年齢層も、友人よりも後輩に対しての方がウチの使用率が低い。

「親に対して」における三者の違いは、大学生と高校3年生のウチの割合は10～14%と同率であるが、高校1年生は40～44%と目立って高くなっていること、大学生はワタシとアタシの使用率が30%もひらいているのに対し、高校3年生と高校1年生はワタシとアタシの使用率が同率であることである。前者は、高校1年生にはウチの内と外での使い分けの意識が薄れてきているためであり、後者は大学生のワタシの使用には、高校生にはない内と外による使い分けの判断があるために生じたものである。

全体的に見ると、大学生と高校1年生にはワタシ・アタシ・ウチの使用には大きな違いがあり、高校3年生は大学生と共通の特徴と高校1年生と共通の特徴があることが分かる。

3.1.4. 場面別・年齢別の使用状況(2)

それぞれの代名詞（「自分の名前」を含む）について、10%以上の使用が認められたものを、場面別・年齢（学年）別に○◎の記号で示すと、以下のとおりである。

なお、それぞれの場面について、優勢な特徴が明確である場合（10%の以上の使用率の差がある場合）はその場面を◎で示した。また、上下関係における「目上（対教師）」、公私関係の「公的（対教師）」においては、「日常」「改まって」の両方で使用されている場合は◎とし、「日常」のみに使用が見られる場合は△とした。

		上下関係			公私関係		家(=内)と外		親疎関係		日常・改まって	
		対等	目下	目上	私的	公的	内	外	親しい	親しくない	日常	改まって
ワタシ	大学生	○	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	○
	高3	○	○	◎	○	◎	○	◎	○	○	○	○
	高1	○	○	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○

ア タ シ	大学生	○	○	△	◎	△	○	○	○	○	○	
	高 3	○	○	△	◎	△	○	○	○	○	○	
	高 1	○	○	△	◎	△	○	○	○	○	○	
ウ チ	大学生	◎	○		○		○	○	◎	○		
	高 3	◎	○		○		○	◎	◎	○		
	高 1	◎	○	△	◎	△	○	◎	◎	○	○	
自 分 の 名 前	大学生						○					
	高 3						○					
	高 1						○					

上の表によると、アタシと「自分の名前」の使用意識（使用する範囲の意識）は大学生、高校3年生、高校1年生で同じであることが分かるが、ワタシ、ウチにおいては学年によりそれぞれ使用意識に違いが見られる。

まず、ワタシは上下関係、公私関係による使い分けの判断は共通しているが、内と外による使い分けは大学生と高校3年生には見られるものの、高校1年生には意識されていないこと、親疎関係の判断においては大学生のみに使い分け意識があり、高校生にはないことが分かる。この結果から、ワタシにおける内と外および親疎関係の使い分けの意識は年齢が高くなるにつれて生じることが分かる。

ウチについては、高校生にのみ内と外との使い分けが見られ、また、高校1年生では、大学生と高校3年生が用いない「目上（日常）」「公的（日常）」の場面での使用も見られる。

3.2. 男性の場合

男性については、紙幅の都合により、調査対象者が多かった高校1年生の結果のみ記す。

3.2.1. 高校1年生男子

高 校 生 現 在			友人	後輩	親	教師(日常)	教師(改まって)
	オ	レ	87%	85%	85%	45%	15%
	ボ	ク	17%	17%	13%	51%	55%
	ジ	ブ ン	2%	4%	2%	17%	17%

ワ	タ	シ	4%	2%	—	9%	21%
---	---	---	----	----	---	----	-----

中学生時		友人	後輩	親	教師(日常)	教師(改まって)
	オ レ	77%	77%	80%	43%	21%
	ボ ク	26%	23%	15%	53%	55%
	ジ ブ ン	2%	4%	2%	15%	11%
	ワ タ シ	—	—	—	9%	19%

<「高校生現在」における相手による使い分け>

オレとボクの使用率は「友人・後輩・親／教師」で大きく分かれ、「公的、私的」の2つの場面のうちオレは私的場面での使用率の方が高く、ボクは公的場面での使用率の方が高くなっている。また、「日常」と「改まって」の場面別では、ボクは両場面での使用率の差がほとんど見られないのに対し、オレは「日常」での使用率の方がかなり高い。

次に、ジブンは「友人」「後輩」「親」よりも「教師」に対する使用率が高くなっている。すなわち、ジブンは「私的」より「公的」における使用が意識されている。ワタシは、主に「教師(改まって)」の場面で用いられている。

<使用時の年齢による違い>

「友人・後輩・親」においては、中学生時にボクを使用していた人が「高校生現在」にオレを使うようになる傾向があり、ボクの使用が減少しオレの使用が増加する傾向にある。

3.2.2. 場面別・年齢別の使用状況(1)

次に、回答された自称代名詞の種類とそれぞれの使用率を、各場面(対者)別に、年齢差を中心に考察する。ここでは、大学生と高校3年生の調査結果も示す。

教師(日常会話)に対して					教師(改まった場面)に対して				
	大学生全体	高校生全体	高校3年生	高校1年生		大学生全体	高校生全体	高校3年生	高校1年生
70%以上					70%以上				
65~69%					65~69%				
60~64	ボク				60~64				
55~59					55~59	ボク			ボク

50～54				ボク
45～49		ボク	ジブン	オレ
40～44		オレ		
35～39	ジブン			
30～34				
25～29	オレ		オレ、ボク	
20～24		ジブン		
15～19	ワタシ			ジブン
10～14				
5～9		ワタシ	ワタシ	ワタシ

50～54		ボク		
45～49				
40～44				
35～39			ボク	
30～34				
25～29	ワタシ		オレ、ジブン	
20～24				ワタシ
15～19	オレ	オレ、ジブン、ワタシ		ジブン、オレ
10～14				
5～9	ジブン、ワタクシ		ワタシ	

友人に対して				
	大学生全体	高校生全体	高校3年生	高校1年生
95%以上				
90～94%	オレ		オレ	
85～89		オレ		オレ
80～84				
75～79				
⋮				
35～39	ボク			
30～34				
25～29				
20～24				
15～19		ボク	ジブン	ボク
10～14				
5～9	ジブン、ワタシ	ジブン	ボク	

後輩に対して				
	大学生全体	高校生全体	高校3年生	高校1年生
95%以上				
90～94%	オレ		オレ	
85～89				オレ
80～84		オレ		
75～79				
⋮				
35～39				
30～34				
25～29	ボク		ジブン	
20～24				
15～19				ボク
10～14		ボク		
5～9		ジブン		

親に対して				
	大学生全体	高校生全体	高校3年生	高校1年生
95%以上			オレ	
90～94%				
85～89		オレ		オレ
80～84	オレ			
75～79				
⋮				
35～39				
30～34				
25～29				

20～24				
15～19	ワタシ			
10～14		ボク		ボク
5～9	ジブン	ジブン		自分の名前

「友人・後輩・親」に対しては大学生も高校生もオレの使用率が80%以上と上位を占めている。また、「友人」と「後輩」に対するボクの使用率は、大学生が高校生よりも高い。

「教師（改まった場面）」では大学生も高校生もボクの使用が1位を占めている。これにより、ボクが目上に対する最も丁寧な言葉として最も意識されていること分かる。しかし、「教師（日常会話）」においては、大学生はボクの使用率がオレの使用率を30%も上回っているが、高校生はオレとボクがほぼ同率で使用されている。

また、ジブンも大学生、高校生ともに「教師（日常会話）」に対して比較的多く用いられている。しかし、ジブンの使用率は高校1年生と高校3年生で大きな差が見られる。

3.2.3. 場面別・年齢別の使用状況(2)

それぞれの代名詞（「自分の名前」を含む）について、10%以上の使用が認められたものを、場面別・年齢（学年）別に○◎の記号で示すと、以下のとおりである。表の見方は3.1.4と同じである。

		上下関係			公私関係		家(=内)と外		親疎関係		日常・改まって	
		対等	目下	目上	私的	公的	内	外	親しい	親しくない	日常	改まって
オレ	大学生	◎	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
	高3	◎	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
	高1	◎	◎	○	◎	○	○	○	○	○	◎	○
ボク	大学生	○	○	◎	○	◎		○	○	○	○	○
	高3			○		○					○	○
	高1	○	○	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○
ジブン	大学生			△		△					○	
	高3	○	○	◎	○	○		○	○	○	◎	○
	高1		○	◎	○	◎					○	○
ワタシ	大学生			○		○	○				○	○
	高3			○		○					○	○

高1			○		○				○	◎
----	--	--	---	--	---	--	--	--	---	---

上の表によると、オレ、ワタシの使用意識は大学生、高校3年生、高校1年生ではほぼ同じであることが分かる。オレは「対等・目下」「私的」関係でより多く使用され、ワタシは「目上」「公的」関係で使用されている。

ボクは学年によって使用度に差はあるが、「目上」「公的」関係で多用される点はワタシと同じである。

ジブンは高校1年生の場合は「目上（教師）」の「日常」「改まり」の両方に区別なく使用される傾向が認められるが、高校3年生の場合は「日常」における使用率が「改まり」より高く、大学生の場合には「教師（日常）」の場面でのみ多用されている。

4. 全体の分析

4.1. 使用語数

調査対象者一人一人が普通何種類の語を使用しているかを見ると、それぞれの使用語数の割合は以下の通りである。

		1 語	2 語	3 語	4 語	5 語	6 語
女子	大学生(現在)	11%	56%	30%	7%	4%	2%
	大学生(高校時)	11%	56%	24%	5%	4%	
	高校生(現在)	13%	31%	44%	9%	2%	
	高校生(中学時)	13%	38%	42%	7%		

		1 語	2 語	3 語	4 語
男子	大学生(現在)	0%	36%	45%	18%
	大学生(高校時)	0%	55%	36%	9%
	高校生(現在)	19%	53%	24%	3%
	高校生(中学時)	21%	53%	22%	3%

全体的に2語と3語の2種類で75%～90%を占めている。また、男子の場合、1語のみの使用者（つまり、場面による使い分けのない者）は、高校生には約20%見られるが、大学生ではゼロである。女性の1語のみの使用者は例外なくワタシの1種類、男子の高

校生で1語の使用者は、その約3分の2がオレであった。つまり、使い分けをしない者は、女子の場合は丁寧度の高い形式で統一し、男子の場合は丁寧度の低い形式で統一していると言えよう。

4.3. 自称代名詞の種類

調査対象者が回答した語形のうち、5%以上の回答がなされた代名詞について見てみると、下の表に示すとおりである。

	女性				男性			
	大学生 全体	高校生 全体	高校 3年生	高校 1年生	大学生 全体	高校生 全体	高校 3年生	高校 1年生
70%以上								
65～69%								
60～64	ワタシ				オレ	オレ	オレ	オレ
55～59			ワタシ					
50～54		ワタシ		ワタシ				
45～49								
40～44								
35～39			ウチ	ボク				
30～34	アタシ	ウチ						ボク
25～29						ボク		
20～24		アタシ	アタシ,ウチ	アタシ			ジブン	
15～19					ワタシ		ボク	
10～14	ウチ				ジブン	ジブン		
5～9	自分の名前			自分の名前		ワタシ		ワタシ, ジブン

この結果を、飛田（1981）が分析している、1974年に東京と大阪で国立国語研究所が実施した自称代名詞の使用調査の結果と比較すると、次のような特徴の違いが認められる（注）。

1974年の東京での調査において使用率が5%以上であった代名詞を順に見てみると、
男性 オレ（70～79%）、ボク（60～69%）、ワタシ（50～59%）、ワタクシ（25～29%）、
ジブン（15～19%）

女性 ワタシ（60～69%）、ワタクシ（40～49%）、アタシ（30～34%）

となる。1974年の調査は15～69歳が対象であり今回の調査とは条件が異なるために単純な比較はできないが、現在の若年層の男女からは1974年には用いられていたワタクシの使用が失われており、男性の場合、オレの使用率が1位であることは共通しているが、

ワタシの使用率は著しく減少し、ボクの使用率においても現在は半分以下にまで減少している。この変化は、オレが1974年における使用意識が「対等・親しい・日常」であり現在もほぼ同じであるのに対し、ワタシは1974年には使用が見られた「親しい・共通」の場面での使用が現在の若年層からはなくなったこと、ボクの場合は「親しい・対等」における使用が現在の若年層においては減少したことが原因であると考えられる。ジブンに関しては、目立った使用率の差は見られないが、使用意識に注目すると1974年の時点では目上に使用する代名詞は、「東京ではワタクシ・ワタシ・ボク、大阪ではワタシ・ボク・ジブンと意識され、ワタクシとジブンに地域差が現れている」と記されているのに対し、今回の調査ではジブンは主に目上に対して使用される語であることが認められた。このことから、現在の若年層が使用しているジブンはかつて東京において使用されていたジブンとは使用意識が異なり、関西弁の影響によって新たに広まり始めた代名詞であると考えられる。

次に、女性の調査結果を比べてみると、今回の大学生の調査結果と1974年の調査結果では、ワタシとアタシの使用率は全く同じになっているのに対し、今回の高校生においてはワタシとアタシの使用率がそれぞれ約10%減少し、一方でウチの使用率が増加している。ここで注目されるのは、1974年には主として大阪でしか見られなかったウチが現在は首都圏の若年層の女性にも使用されており、その使用率が高校生全体ではかつてのアタシに匹敵する割合を占めていることである。これも首都圏における関西弁ウチの広まりと浸透を示していると言える。

今回の調査結果からは断定はできないが、関西弁であるウチとジブンの使用が若年層の間で広まった原因の一つは、標準語のワタシが持ち合わせていない関西弁独特の言葉のやわらかさが使いやすさへと繋がったからであると考えたい。とくに、ウチについては、親しい間柄の相手に対してワタシでは堅苦しく気恥ずかしい感じがするが、ウチはくだけた感じも出せて使いやすい、ということである。しかし、「くだけた言い方」としてはアタシやオレ、ボクが既に存在しておりその機能をまかなえたはずなのに、新たにウチとジブンを使用し始めたということが大変興味深い。

5. まとめ

小稿で分析した内容のうち、主な特徴を記すと以下のとおりである。

(1) 全体の傾向と特徴

●飛田（1981）に見られる、国立国語研究所が1974年に実施した自称代名詞の使用調査

の結果との比較により、首都圏の若年層で使用されている「ウチ」と「ジブン」は関西弁の影響を受け、近年使われ始めた代名詞であると認めらる。

- 「ウチ」は大学生よりも高校生における使用率が高く、使用される場面の範囲も大学生よりも高校生の方が広い。
- 男性も女性も、大学生に比べ高校生、特に高校1年生の間では公私関係や上下関係を意識した言葉の使い分けが希薄である。
- 「目上、公的」な場面において、大学生は「日常」と「改まって」の差が見られないのに対し、高校生は、「日常」では「改まって」よりも私的な場面に近い語の使用がなされる。このことより、高校生は上下関係よりも親疎関係によって語の使い分けが意識されているとも考えられる。

(2) 男女の相違

- 女性が主に使用する自称代名詞は「ワタシ」、「アタシ」、「ウチ」、「自分の名前」、男性は「オレ」、「ボク」、「ジブン」、「ワタシ」であり、男女差は明白である。
- 「友人・後輩・親」に対しては、男性の場合は「オレ」の使用率が著しく高く、他の語との使い分けがあまり無いのに対し、女性は各場面でそれぞれ「ワタシ」、「アタシ」、「ウチ」、「自分の名前」の4種類の語の使用が見られ、親疎関係や内と外の判断によって使い分けがなされている。
- 「教師」に対しては、男性は「ワタシ」、「ボク」、「ジブン」、「オレ」の4種類の語を使用し、目上に対して使用する語が統一されていないのに対し、女性は「ワタシ」の1語が特に意識されている。

(3) 女性の場合

- 大学生と高校3年生では「ウチ」の使用は私的な場面に限られているのに対し、高校1年生は公的な場面にまで「ウチ」の使用範囲が拡大している。しかし、「ウチ」の使用は年齢が高くなるにつれて減少する傾向が認められる。
- 「ワタシ」の使用では、大学生には親疎関係による使い分けが意識されるのに対し、高校生には親疎関係による使い分けの意識がない。
- 反対に、「ウチ」には、大学生に見られない内と外の使い分けの意識が高校生に認められる。

(4) 男性の場合

- 大学生では「ジブン」の使用が「公的（日常）」に限られているのに対し、高校生においては「私的（対友人など）、公的（改まって）」にまで使用が見られる。

- 「教師との日常会話」の場合、大学生はボクの使用率がオレよりもかなり高いが、高校生はボクとオレの使用率が同程度である。

6. おわりに

本稿では、首都圏の大学生と高校生の男女の自称代名詞の使用意識についてアンケート調査に基づく結果を分析してきた。男女の差は明白であり、また同じ種類の語においても年齢によって使用意識に違いが見られることが分かった。そして、相手に対して自分を何と呼ぶか、という問題は単に言葉遣いの問題というよりも、それぞれの世代や集団がどのように相手との関係を認識し、どう表現するかの問題であり、上下関係や親疎関係といった判断や価値観の違いが自称代名詞の言葉の選定に大きく関わっていることを改めて感じた。

ただし、高校3年生の男女、および、大学生の男性については取り扱ったデータが少なかったため、調査結果に個人の傾向が反映されやすくなっていることは否めない。調査対象者を社会人から中学生、小学生にまで広げて全体の傾向を確認することが今後の課題であり、さらに、大学生や高校生において今後どのように自称代名詞が使われていくのかについて、継続的な調査研究がなされることを願っている。

注

この調査は1974年に国立国語研究所が行った。調査対象者はサンプリング(無作為抽出)によって選ばれた10代～60代の男女で、東京都区内在住者667人(男315人、女352人)と、大阪市在住者361人(男196人、女165人)である(他府県に生育した者を含む)。調査項目は多岐にわたるが、飛田(1981)は、その中の人称代名詞項目の調査結果を分析したものである。

参考文献

飛田良文(1981)「人称代名詞の使い分け」, 国立国語研究所『大都市の言語生活 分析編』pp. 263～276 三省堂

Abstract

The purpose of this report is to clarify the actual condition of the first person pronouns used by university students and high school students in Tokyo areas. I conducted a questionnaire with 100 women respondents (55 university students, 45 high school students) and 69 men respondents (11 university students, 58 high school students) who lived in Tokyo area when they were 5 years old to 15 years old.

As a result of this study, the difference between men and women appeared in the vocabulary of the first person pronouns. the women mainly use “*Watashi*”, “*Atashi*”, “*Uchi*”, and their own name. the men mainly use “*Ore*”, “*Boku*”, “*Jibun*” and “*Watashi*”. Furthermore, “*Uchi*” and “*Jibun*” have started to be used in recent years, owing to the influence of Kansai dialect.

On the other hand, in terms of age difference between the university students and the high school students, my analysis demonstrated the following aspects:

- In case of the women, the university students use “*Watashi*”, depending on how familiar they are with the hearer. but there is not the same difference with the high school students.
- The high school students use “*Uchi*”, depending on the situation whether inside or outside, but there is no difference with the university students.
- When speaking to elders, male university students use “*Boku*”, while male high school students use “*Jibun*”.

In addition, it was found that the use of “*Uchi*” tend to decrease, when female high school students become university students.